

(学校番号228)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植竹中学校】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 単元ごとに理解度や基礎的な知識・技能の定着に差がある。 <指導上の課題> 習得した学習内容を活用する場が少ない。	⇒ 1つの教科や単元で学んだ知識・技能を別の単元や他の教科でも横断的に扱えるように、継続して問題演習や単元テスト等を実施し、定着を図る。また、教科横断的な視点を身に付けられる活動を授業に取り入れ、実践していく。また、より一層基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるようにするために、スタディサプリやプリント等を活用して、くり返し問題演習に取り組みせ、粘り強く取り組む態度を養うようにする。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 「思考・判断・表現」の記述式問題の無解答率が高い。 <指導上の課題> 様々な場面で、自分で考えたことを自分の言葉で説明する活動が少ない。	⇒ 生徒にとって身近な問題を解決する活動や、グループワーク・ディベート活動・スピーチやビジュアルなど多種多様な場面での活動を行うことで、生徒が課題意識を持って学習する機会を設ける。また、答えを導く過程を言葉で説明する活動を継続して行ったり、ICTを活用しつつ生徒が自分の活動を振り返るだけでなく教員から成果をフィードバックし評価したりする場を増やす。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	R6年度全国学力・学習状況調査(国語)「言葉の特徴や使い方に関する事項」における正答の割合は66%であった。正確な語彙力が身につくような授業を今後も継続していく。
思考・判断・表現	R6年度全国学力・学習状況調査(国語)「読むこと」における正答の割合は53%であった。正確な語彙力が身につくような授業を今後も継続していく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組んだ。	変更なし
思考・判断・表現	B	単元ごとに、各自の読みを共有、考えを伝えあう活動を取り入れた。	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評価
A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)